

第 209 回 友の会 湖西 伊香立の里

～人と自然が共に生きる里山～

日 時 2022 年 10 月 23 日（日）

場 所 大津市伊香立 南庄から融神社周辺

天 候 晴れ

参加者 55 名（内スタッフ 17 名）

今回は初めてのフィールド。果たしてどんなところかな。この地の紹介者であり今回のリーダーでもある眞田さんを先頭に、9 時半に南庄のバス停前を出発。秋はタデとマメの仲間がよく見られます。あとイネ科植物も。そこらに注目して歩きましょう。

まずはイヌタデを発見。濃いピンクの花がびっしりと。アカマンマとも言う。確かにそんな感じ。ついでに、先にあったミゾソバ、ミズヒキもタデ科です。街道を進む。コバノガマズミはガマズミに比べ葉柄が短く、小さめの葉に多めの毛が。赤い実が甘酸っぱい。アキノキリンソウはキク科の在来種。外来種のセイタカアワダチソウとは違います。あ、ツタウルシ、触らないように気をつけて。色づき始めている。はい次、この薄紫の舌状花は……ノコンギクかな。失礼して花弁を一片むしってみる。先に毛がありました。それでヨメナではなく、やはりノコンギクだとわかります。

自治会館の向かいに在来のコミカンソウがありました。ブラジル産ナガエコミカンソウとは違います。10 時前、光明寺まで来ました。ミョウガの花が咲いています。溝にミズタビラコ。キチョウがつがいで飛んでいます。色の薄い方がメス。



キッコウハグマ



コバノガマズミ



アキノキリンソウ



アカバナ

さて、せっかくですからイネ科のエノコログサ類を3種覚えましょう。最もよく見るのはエノコログサ、緑色で穂は直立しています。いわゆる猫じゃらし。アキノエノコログサは花穂が長く、先が垂れます。キンエノコロ（金狗尾）はその名の通り、色でわかる。ゆさぶって、タネが落ちるのは野生の証拠。子孫を残さなくてはなりませんからね。



アキノエノコログサ

テイカカズラの種を飛ばし、ムクロジの大木を過ぎて10時半、小高い丘の上、唐崎せせらぎ公園に到着。上空をトビが舞っています。目指すは先に見える融神社。鳥居前のモミジが色づいている。一服したら丘を下りましょう。コウヤボウキは今は盛り。葉の違いで1年目か2年目かわかります。1年目の葉は広い卵形で、2年目の葉は3〜5枚が束状に付きます。ヤブコウジの赤い実が美しい。十両ともいう。



コウヤボウキ

丘を下ると小さな湿地が。気をつけないと靴がずぶつと沈みそう。アキノウナギツカミは湿ったところが好み。タデの仲間で茎はざらざらした感触。だからといって「ウナギツカミ」とは、何とぶつ飛んだネーミングセンス。その隣にイネ科のコブナグサ。葉っぱが茎を抱えています。鰻に鮎……この湿地、魚へんにこだわってる？



コブナグサ

11時前、融神社に着きました。創建に関わる源融（みなもとのとおる）は、光源氏のモデルとも言われているとか。参道にツルアリドオシ、ツルリンドウ、アクシバ。今回の目当てのひとつ、キッコウハグマに出会うことができました。閉鎖花が多い。「キッコウ」は葉の形を亀甲になぞらえた名づけ。ハグマ（白熊）とは動物のヤクの尻尾で作った、旗竿などにつける飾りや、仏具の払子の先に使われるもののことで、白い花を例えています（東京都大島支庁のサイト&永田芳男『秋の野草』山と溪谷社より）。本殿のある区画に入ると、モズの高鳴きが響いてきました。いやいや、君のなわばりを荒らすつもりはありません。舞台の軒に、コガタスズメバチの初期の巣が4つ。今は徳利型ながら、本来ラグビーボール状にふくらむはず。でも、もう放棄されて



コガタスズメバチ

いるようですね。

神社を出たところにハナタデ見つけ。イヌタデと比べると色が浅く、花の付きがまばらです。下り道の脇にコ克蘭とノギランが。ノギランは茎が葉の横っちょから出ています。あ、目に鮮やかなホトトギスがたくさん。園芸種が逃げてきたのかな。進むにつれて里山の気配がいつそう濃くなります。堅田駅からバスで10分のところから歩き出したはずですが、そうは思えないのどかさ。藪の奥にタンキリマメ。種子は枝豆みたいな形状で、赤く色づいています。茎と葉に鎮痛や解熱の薬効があるそうですが、豆が「痰を切る」というのは俗説かも。

正午過ぎました。お弁当を食べていると、森の中でヤマガラがニイニイニイ。お腹もふくれたし、いよいよフィールドの最深部へ。田んぼの脇に並ぶサクラタデ。薄桃色の桜型の花が美しい。電気柵にジョロウグモの巣。何度見ても、堂々たるメスに比べオスはびっくりするくらい小さい。その昔、いったい何があったんだ。第1オスと第2オスがいます。またよく見ると、巣の端にシロカネイソウロウグモ。ひどいネーミングだ。どこに住もうと勝手じゃないか。柵の上に赤トンボが止まっている。ナツアカネの胴体は真っ赤。アキアカネはそこまで赤くなくて、橙色に近い。胴体の黒い模様でも区別できます。双方とも草の緑によく映える。ルート最後の道に入ると、山側にチョウジタデ。在来種。タデという名は付くけどアカバナ科です。田んぼ側にはヒレタゴボウ。こちらはチョウジタデと近縁ながら、北米原産の外来種です。

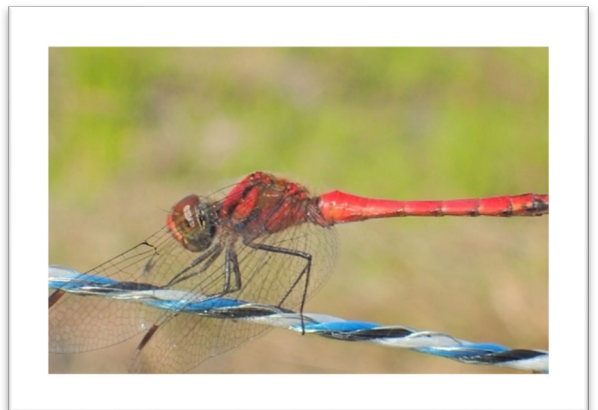
いよいよ最終地点に到着。遠くに比良の山並み、目の前に緑の草地が広がり、頭上は青い空に白い雲、振り返ると足下にリンドウの花が咲いていました。観光物件など皆無でも、自然に興味さえあれば、みずから楽しみを見つけることができる。



台湾ホトトギス



アキアカネ



ナツアカネ



ノシメトンボ

初めての観察地。参加者から「ええとこや」との声が聞こえてきます。よかった。よかった。草地に里山に水田。かつてよく見られたであろう何気ない景色は、しかし今や消えつつあるのかもしれない。引き返す途中、融神社の鎮守の森でカケスがじゃあじゃあと鳴いていました。その声に送られるように、家路につきました。（報告：中川）



ウメモドキ



チョウジタデ



ノササゲ



リンドウ



ツルニンジン（ジイソブ）



店開き イネ科 マメ科 タデ科 キノコ達の大集合